



<当会のホームページ>

<https://www.furusatotaishi.com>

■ 本会のシンボルマークは、大使同士の情報交換及び、その委嘱者との相互交流を主眼に図案化。4つのモチーフからなり、山(緑色/地方・故郷・自然)と矩形(青色/都会・テクノロジー)と円及び輪(黄、橙/人・情報・ネットワーク)を表現。

## HEAD LINE

【1面】

触媒 (カタライザー) の必要性

——平谷 英明

【2～3面】

これからの地域おこしに役立つカタカナ語

【4～5面】

桐生市の観光の取り組み

～個性を活かした観光～

桐生市産業経済部観光交流課

観光振興担当

——峯岸 靖子

【6～7面】

茨城県那珂市 地域おこし協力隊の取り組み

——八子結奈・支倉泰司・兵藤一輝

【8面】

旅を詠む(七)歌詠み人 鈿谷君子の旅紀行

——鈿谷 君子

【8～9面】三名(迷)所探し

【10面】

「亀島川みずべまつり」盛大に開催

——本多 忠夫

【11面】

新会員のひと言

会員の提言「竹の文化を守り育てよう」

——鈴木 克也

【12面】

新年会員交流会の御案内

事務局より

全国ふるさと大使連絡会議の概要

編集後記 他

## 触媒 (カタライザー) の必要性

化学の世界に、触媒 (カタライザー) というそれ自身は全く目立たない地味な存在なのだけれど、それが無ければ化学の世界が回っていかないという不思議な物質が存在します。

広辞苑には、次のように説明されています。

**触媒：化学反応に際し、反応物質以外のもので、それ自体は化学反応を受けず、しかも反応速度を変化させる物質**

例えば、重曹 (重炭酸ソーダ) で、自らは無味無臭で地味な物質ですが、これが無いと寒天は固まらず、ホットケーキは膨らみません。

最近、この触媒のような存在すなわち、自らは表舞台に立たず、特別な利益も受けないのだけれど、世の中を進めるためにはなくてはならない存在が必要ではないかという気がしています。

ドラマの世界におけるプロデューサーの存在を思い浮かべていただければ、分かりやすいかもしれません。プロデューサーが台本を選定し、監督を決め、主役、脇役にそれぞれ適した俳優をピックアップし、全体の流れをコントロールすることで、1つのドラマが仕上がりますが、プロデューサー自身が舞台上上がってドラマを演じるということはありません。

政治の世界で言えば、無位無官だけれども影響力のある重鎮が触媒に当たります。

権力欲、金銭欲、名誉欲が渦巻き、意見対立、利害対立がある政界にあって、無私の姿勢と国益第一の観点から政策や人事を調整し、国政の前に進めることができる存在です。

例えば、昭和50年代の椎名悦三郎、伊東正義---彼らは総理になれる力量を持ち、事実総理就任を打診されるが断って政界の調整役に徹し、現職総理が関わったロッキード事件の余波、現職総理の病気による急逝という大変な時代に国の進路を過ちませんでした。

彼らの立ち位置は俗な言い方をすれば、キングメーカー、フィクサー (黒幕) となりますが、他のキングメーカー、フィクサーと異なるのは、無私であったという点で、それが触媒の所以です。

経済界で言えば、財界の世話役で、彼らは自己の企業だけでなく、幅広く日本全体の経済発展を図るため、誕生間もない企業やヨチヨチ歩きの企業にその事業に相応しい人材のマッチングを図り、必要ならば資金手当ての面倒も見る頼もしい兄貴のような存在です。

分かりやすい例は、明治期の渋沢栄一、五代友厚、土居道夫らで、彼らは日本の近代資本主義の黎明期に数多の企業の創設、育成に携わり、その中からわが国の経済を牽引する大企業、優良企業が多数生まれました。

その後、触媒としての役割は、三井、三菱、住友、安田などの財閥 (コングロマリット) に、終戦で財閥が解体された後は、銀行、証券などの金融機関に移りました。

この金融機関が町工場だったソニー、ホンダ、パナソニック……を世界企業に育てたことは、よく知られた話です。

同様に、地方においては、地銀、第2地銀、信用金庫、信用組合がその役を担い、地方の企業を発掘、育成しました。

ところが、こうした金融機関が金融バブル崩壊、アジア通貨危機、リーマンショックでダメージを受け、さらに長期に渡る低金利政策で体力を奪われたため、じつくりと新興企業、地方企業を育てたり、リスクを冒しても潜在的に成長能力のある企業に投資したりする触媒としての役割を果たすことが難しくなりました。

この触媒 (カタライザー) の不在が、「Lost 3 Decades (失われた30年)」と呼ばれる景気停滞を招いた一因ではないかと私は思っています。

最近、信用金庫の全国ネットワーク『よい仕事おこしフェア実行委員会』のように地域の金融機関に再び触媒としての機能を果たそうとする気運が出はじめて来ました。さらに、新しい触媒 (カタライザー) として、自治体や個人のアドバイザーなどが注目を浴びています。

例えば、福岡市、浜松市などの起業家カフェ、スタートアップ支援などです。

他方、コロナ禍も3年目となり、大変な経済環境ではありますが、それを1つのビジネスチャンスとして捉え、新しい企業の芽が出始めています。

- ・食事のデリバリーサービス
  - ・スポーツ用品のデジタルショップ
  - ・リモートワーク、デジタル会議
  - ・野外活動 グランピング 移住の仲介……
- などの例です。

こうした新しい起業家たちと良い触媒 (カタライザー) との出会いから地域がより元気になるようにと願う昨今です。

代表 平谷 英明



# これからの地域おこしに役立つカタカナ語

外来語、和製英語

最近、地域おこしについてもカタカナ語（外来語、和製英語）が増えてきましたので、分かりやすくまとめてみました。

## 1 DX (Digital Transformation デジタルトランスフォーメーション)

**デジタル変革**：デジタルを活用した産業構造、社会構造の変革をいい、今後の地域おこしに避けて通ることのできない基本的な概念です。

### (1) Dはデジタル (digital)

デジタルの次のような特徴

- ①処理スピードが速いこと
- ②大量の処理が可能なこと
- ③複雑な加工が可能なこと
- ④双方向通信が可能なこと

を活用して、様々な分野で便利なツールができています。

### (2) Xはトランスフォーメーション (transformation)

接頭語のtrans-が「横切って」、「別の状態（場所）へ」、formationが「構造」という意味ですので、transformationは「別の状態の構造になること」から「変容、変革」となります。

このtrans-がクロスして横切るからクロスの字形Xで表現されるようになったものです

今後、スーパーコンピュータ『富岳』ですらスローに見えるほどの桁違いのスピードで大量のデータ処理ができる**量子コンピュータ**の出現が見込まれており、様々な分野で生活や社会が変化していくと考えられています。

いずれにしても、DXは今後の地域おこしの重要なアクターなので、IT企業の中には、各地に「地域DXセンター」を設置し始めているところもあります。



①美保の松原の天女



②四日市市のこにゅうどうくん



③伊勢の招き猫

## 2 GX (Green Transformation グリーントランスフォーメーション)

**みどりの変革**：経済成長と環境保護を両立させながらカーボンニュートラルを実現するために必要となる経済社会の大変革（経済産業省）  
緑の資本主義とも呼ばれています。

経済成長と環境保護という一見矛盾する目標を両立させるための具体的な政策手段や調整手法がポイントになると思われます。

と言いますのも、経済成長につきもののエネルギー消費の増大を切り離す（デカップリング）することが求められているからです。

ちなみに、スウェーデンの環境活動家のグレタ・トゥンベリさんをはじめとするヨーロッパのZ世代（後述5で説明）は、環境保護に徹するべきとして「脱成長」というスローガンを掲げています。

（参考）FFF(Fridays. For Futureフライデーズ・フォー・フューチャー)

グレタさんが始めた 政策立案者に気候変動対策を求め草の根運動で、抗議活動などを金曜日に開始することからFridays.を冠したものです。

## 3 デジタル田園都市国家構想

昭和50年代に大平正芳首相が提唱した「田園都市構想」にデジタルと国家を付加したもの。大平首相の構想は、職住近接によるゆとりのある生活と大都市の近郊に衛星のように田園都市を配置し、国土の均衡ある発展を図るというものでした。

令和のデジタル田園都市国家構想は、「デジタル技術の進展を背景に、その活用によって地域の個性を生かしながら地方の社会課題（人口減少、過疎化、産業空洞化など）の解決、魅力向上のブレークスルーを実現し地方活性化を加速する」と説明されています。（内閣府）

具体的な内容は、スマート・シティ、リモートワーク、MaaS（後述10で説明）、働き方改革などで、国土政策というよりは、産業政策、過疎対策などの色彩が強いです。

## 4 DXの事例

### (1) マスク在庫アプリ

2年前にコロナが流行し始め、パンデミックの危険が叫ばれていた頃、マスクの買い占め騒動などが起りました。その際、わが国ではアベノマスクの製造配布という対応が取られました。

台湾ではオードリー・タン デジタル担当相が6千店以上の薬局と調整し、30秒ごとの在庫状況のデータが住民に伝わるマスク在庫アプリを開発し、需要・供給のミスマッチをデジタル技術で対処することで解決しました。

### (2) オープンデータ

オープンデータとは、公共の機関が調査して収集したデータを誰でも使えるように公表したもので、行政が有するデータは税金で集めた住民の共有財産であるという考えに基づくものです。

静岡県では、地質、地震関連データをオープンデータにしたため、地震学者の研究が進み、また、県の方でも、既にオープンデータ化されているので、従来のような情報公開請求の件数が減り、職員の負担軽減にもなったと言われています。

## 5 Z世代

Xの次はZという語呂合わせではないのですが、1990年代半ば～2010年頃に生まれた世代でIT、デジタル化が進んだ時代に育ち、ITテクノロジーやインターネットになじんだ若者を指します。今後、彼らの価値観、生活スタイルなどが政策作成にも大きな影響を与えると見込まれていますので、地域おこしの観点からも目の離せない存在です。

また、究極のZの次は何世代というようになるのだろうか？と気になるところですが、

ギリシャ文字の最初のα（アルファ）のα世代になると言われています。

## 6 Web3

インターネットの世界にweb3 という新しい動きが生じています。

1990年代は**Web 1**の時代で、情報発信者がWWWサーバーを立ち上げ、そのホームページを閲覧者が見て楽しんでいました。（分散的、散発的な時代）

2000年代に入ると急激に商業化が進み、GAFA（グーグル、アップル、フェイスブック、アマゾン）などが、企業の提供するサービスのプラットフォームを構築しました。この時代は、**Web2**の時代と呼ばれ、情報の中央集権化が進んだのが特徴的でした。

最近、利用者がコンテンツの保有者になったり、プラットフォームの設計に加わったり、サービスの提供主体となるなど自律分散的に参画するようになり、**Web3**の時代と呼ばれています。

その典型が、**ダオ：DAO (Decentralized Autonomous Organization)**と呼ばれる分散型自律組織です。DAOは、会社組織ではなく、プロジェクトのようなもので、個人が気に入った場合や貢献できそうな場合に参加し、その運営は、メンバー全員参加のもとで直接民主主義的に決定され進んでいます。

そのDAOの活動の場となるのが、**メタバース (Meta-Verse：超越した1つの世界)**で、参加者は自分に最も適した方法や**アバター (Avatar：ヒンドゥー教の神の化身から転じて、バーチャルリアリティの世界での自分がなりたい自分の姿)**で参加できます。

このため、多様な参加が可能で、各自の精神的、肉体的制約を乗り越えた貢献ができるようになります。

## 7 SDGs (Sustainable Development Goals 持続可能な開発目標)

今後の地域おこしの基本的な姿勢となるのがSDGsで、最近マスコミでよく取り上げられ、コマーシャルでも「わが社はSDGsの取り組みを進めています。」と宣言する企業が増えています。

SDGsは、goals (ゴールズ)とありますように、2015年の国連総会で採択された17の国際目標で、①貧困をなくそう---⑦エネルギーをみんなにそしてクリーンに---⑩気候変動に具体的な対策を---⑭海の豊かさを守ろう--- など多様な具体的な形で示されています。さらに、その下に、169の達成基準と232の指標が定められています。

また、その達成に当たっては「**leave no one behind (誰一人取り残さない)**」をスローガンに、世界中の国々や人々を対象に誰も置いてきぼりにしないと宣言しています。

わが国では、真庭市や宇部市がSDGsモデル都市に指定され、地域のパートナーなどとともに地域循環型経済、ガーデンシティとして環境保全対策などを推進しています。



④草木供養塔

## 8 人新世 (Anthropocene：アントロポセン)の時代

地球上で爆発的に増加した人類の営みが地球の生態系に重大な影響を与える時代を言い、

人類が未開の領域に土足で踏み込むことにより

- (1) 熱帯雨林の減少
- (2) 生物多様性の喪失
- (3) 動物由来と目される病原菌の人類への伝染などの憂慮すべき事態が生じています。

このような人新世の課題に対処するために、Z世代の「脱成長」、SDGsが唱導されているとも言えます。



写真キャプション ①美保の松原の天女 (発想が空を飛んでいるというシャレみたいな理由からです) ②四日市市のこにゅうどうくん (首が伸び縮みするハイテク? 利用のゆるキャラという理由です) ③伊勢の招き猫 (DXが招き猫のように地域おこしができますように) ④草木供養塔 (草木を大切にしていた日本の伝統で持続可能な世界を) ⑤ローカル線

## 9 EBPM (Evidence Based Policy Making：証拠に基づく政策立案)

EBPMとは「政策の企画をその場限りのエピソードに頼るのではなく、政策目標を明確化したうえで合理的根拠 (エビデンス) に基づくものとする」とされています。(内閣府)

- (1) 情報の収集
- (2) 成功要因の分析
- (3) 他の選択肢との比較研究
- (4) 場合によっては、無作為抽出サンプルで試行
- (5) 政策の実施
- (6) 検証して、フィードバック

という手順を踏むことが大切とされています。(かわら版2021年夏季号巻頭言「ヨコ展開からEBPMの時代へ」参照)

## 10 コンテンツ・ツーリズム (Contents tourism)

コンテンツ・ツーリズムとは、文学、映画、テレビドラマ、漫画、アニメなどのコンテンツ (中身) の舞台となった土地を訪れて、作品を体感する観光行動です。

一昔前の話になりますが、「世界の中心で愛を叫ぶ」、「冬のソナタ」などのロケ地の高松市や春川 (チュンチョン)、南怡島 (ナミソム) を巡るツアーが大流行し、ロケ地誘致に乗り出すための**フィルム・コミッション (Film commission：ロケ地誘致やフィルム撮影のサポートを行う非営利団体)**の設置がしきりに喧伝されたことがありました。

また、昨年の本連絡会議の全国大会で観光プランディングアドバイザーの小松崎友子さんが、コロナ禍の今こそ観光コンテンツの磨き上げ、インバウンド観光などに繋げましようと言及されていましたが、そのコンテンツの一例がコンテンツ・ツーリズムです。

少しユニークな例に、和歌の英訳によって外国人観光客を呼ぼうというコンテンツ・ツーリズムがあります。アイルランド出身で日本在住歴30年以上の翻訳家ピーター・J・マクミラン氏は、万葉集、百人一首などの英訳をし、その情報を発信しインバウンド観光を進めようと努力されています。

いわば、和歌の**歌枕の英訳版**の地域おこしともいえるもので、実を結べば、インバウンド観光のキーとなるかもしれません。

## 11 MaaS (Mobility as a Service)

住民、旅行者のニーズに応じて、複数の公共交通、その他の移動サービスさらには観光、医療などのサービスを組み合わせ、利用者の利便 (検索、予約、決済などを一括化、容易化) に資するとともに、割引など金銭面のメリットも享受できるシステムです。



⑤ローカル線

もともとは、モーツァルトを記念したザルツブルグ音楽祭で賑わうザルツブルグ市で生み出されたシステムで、音楽好きだけれども旅慣れていない外国人観光客をばる観光業者が横行したため、旅の初心者でも安心して食事を楽しめるレストラン、土産物店、交通機関を網羅したカードを発行し、そのカードですべて支払えるシステムとしたものです。

これにヒントを得たMaaSシステムは、二次交通の整備、安心できる買い物の店舗、レストランなどと連携したカードシステムで、高齢者の観光、インバウンド観光にも利便なもので、今後の地方の観光振興のキーとなると思われます。





# 【茨城県那珂市 地域おこし協力隊の取り組み】



○協力隊員（3名）

やこ 八子 (第1期生・令和2年4月～)  
 ゆうな 結奈 (第1期生・令和2年4月～)  
 はせくら やすし 支倉 泰司 (第2期生・令和3年4月～)  
 ひょうどう かずき 兵藤 一輝 (第3期生・令和4年4月～)



## ▶▶市営公園を盛り上げるイベント作り

那珂市地域おこし協力隊 **やこ 八子** **ゆうな 結奈**

はじめまして。茨城県那珂市地域おこし協力隊の八子結奈です。

私の活動ミッションは“静峰ふるさと公園の活性化”。東京ドーム2.5個分の広さを誇る同園は、八重桜の名所として知られ「日本さくら名所100選」にも選ばれた市営公園です。春には数万人の来園者が集まる一方、その他の季節の集客力が課題となっています。



協力隊に着任してからこれまでの2年半は、来園者の増加を目指し、「オリジナルイベントの企画」と「市民とのイベント共催」を意識して活動してきました。

オリジナルイベントのなかで、最も手応えを感じている企画が「あおぞらクローゼット」です。着られなくなった子ども服を回収し、園内で一斉配布するこのイベントは市外からの参加者も多く、これまで5回の開催で1万着を越える子ども服を次の子たちへ繋げることができました。

このイベントが支持された理由は、同園で最も来園が多い小学生以下の子どもを持つ保護者のニーズとマッチしたことです。「子ども服はすぐに着られなくなってしまって家計の負担」、「もう着られないけど、まだ綺麗で捨てられない」など。一見、公園とは関係のないような悩みを、日頃から遊びにくる場所で解決できたことが、支持されている理由だと思います。また、このイベントは大きな運営費がかからないことから、コンスタントに開催することができます。参加者の声を反映させながら、分析と改善をこまめに重ねることができるのも、イベントのイメージが良くなっているポイントだと思います。

もうひとつ大切にしていることは、私の他にも市民の中からイベントの主催者「イベントプランナー」を誕生させることです。公園の活性化というと、直接的に参加

者を増やすことに目を向けがちですが、私たちの仲間として、関係者を増やすことで、イベントの持続性が上がったり、企画の分野が多様化していくメリットがあります。また、着任と同時にスタートさせた同園公式SNSにより集客力もついてきたことから、静峰ふるさと公園は、一般の方に気軽にイベントを開催していただくのにぴったりの場所となってきました。

最近では、趣味でバルーンアートをしている方による「バルーン作りレッスン」が人気イベントに成長しています。市の文化財を研究している市民グループと行った展示会も良い催しとなりました。開催場所が同じでも、主催者の得意分野によって、全くカラーの異なるイベントが完成するので、来園者の年齢層や雰囲気幅も広がっています。

毎度、趣旨の異なるイベントの実施に伴走するなかで、「他の来園者への影響はないか」、「効果的な告知方法は何か」など頭を悩ませています。主催者さんのイメージするイベント内容と静峰ふるさと公園の特性をマッチさせることが私の任務です。

これからも、来園者のニーズを捉えながら、静峰ふるさと公園をより生かすことのできるイベント作りを心がけていきます。

## ▶▶「やりたい」をカタチにしていくために

那珂市地域おこし協力隊 **はせくら やすし 支倉 泰司**

令和3年4月の自分が着任したと同時期にオープンした【いい那珂オフィス】（那珂市商工会2階）を活動拠点として、地元の方々や移住者の『やりたい』をカタチにしていくために、対話を通してアイデアを具体的にしていき、そのために必要なヒトやモノを明確化して、行政・企業・団体・個人の“縁”をそれぞれ上手く繋いで起業のお手伝いや地域の問題解決、移住の促進、そして地域の活性化をサポートしています。



その一環として【小商い寺小屋】という簡易創業セミナーを定期的に開催しています。

自身が東京で飲食店を創業・経営している経験を基にして、自分が創業にあたって何を考えていたか、続けていく難しさ、各種許可申請の取り方、イベントの企画運営方法などを伝えて、独自のマルシェの開催や家業の拡大や独立のお手伝いなどをしています。去年1年間で5回開催しましたが、地域に眠っているチカラや情熱を感じられて、次はどんなことがあるのだろうと毎回ワクワクしています。

例をあげるなら、「市外から移住をして、地元の野菜を使った飲食店を開業したい」という方が参加くださり、飲食店の開業・運営のアドバイスはもちろん、先輩隊員にも協力してもらい地元農家さんをご紹介したり、逆にこちらから市内にある静峰ふるさと公園へのイベント出店をお願いしたりと、地域との繋がりをつくるお手伝いをさせていただきました。

また、「スマホ・PCのスキルを活かしてシニア世代に寄り添った相談会を開いて、いずれは仕事に繋がりたい」という方とは、一緒に無料相談会から始め、スケジュール管理・チラシ作成・広報・学習内容の精査などを経験してもらい、運営方法・料金設定・集客宣伝方法などを共に考え、活動拠点である【いい那珂オフィス】にある貸しデスク・コワーキングスペースを活用しての起業のお手伝いをさせていただきました。

今後は参加者同士のコラボ企画や、より具体的に起業を目的としたセミナーも開催していこうと考えています。

一例としては【那珂市起業家育成プロジェクト WEBデザイナー編】と題して【企業ホームページ作成“実践”講座】を開講し、那珂市に実際にある企業様と那珂市にゆかりのある現役WEBデザイナー様にご協力いただき、企業ホームページ作成の際に必要な基礎知識・便利なツール・グループワークの講義を行い、案件の受注・企業へのヒアリング・制作・プレゼンといった仕事の一連の流れを実践的に学んでいただき、起業・副業のきっかけにして今後のキャリアやスキルアップに役立ててもらおう企画となっています。

これらの活動を通して誰でも気軽にチャレンジできる環境を創って地域の活性化を目指すと同時に活動を通して繋がった様々なご縁に応えられるように、そして自分自身もよいご縁を繋いでいきたいと思っています。

## ▶▶ 地域おこし協力隊の活動を通してみてきたこと

那珂市地域おこし協力隊 ひょうどう かずき  
兵藤 一輝

私のミッションは「受け入れ法人で農作業に従事しながら、独立・法人就農に向けた園芸作物の基礎知識や栽培技術の習得」と「新規就農に向けた活動、現場



の声や農産物に関するイベント等の情報をSNSで発信」となっています。

まず初めに、那珂市はとても良いところです。人も温かくて本当に住みやすく、東京圏で窒息しかけていた自分も妻も心から解放されたと感じています。しかし、私の頭を悩ませているのは「活動終了後、果たして自分は就農できるのか?」という問題です。

私の描く就農の形としては独立就農で、妻と一緒に農業をしたいと思っています。流れとしては「受け入れ先の農家さんで技術を習得し、農地を確保して独立。」です。

何となくイメージはしやすいのではないのでしょうか。しかし、農地の情報というのは極めて流動的ですし、色々な農家さんの思惑も絡んできます。つまり、非農家の人間が地域に入っても、良い農地にありつけるかは正直微妙なところなんです。自分の生活がかかっているこの場合“その時になってみないとわからない”というのは当てはまりません。運に委ねるにはあまりにも大きな問題です。しかし、農地や新規就農に関する情報はオープンではありません。理由はいくつも考えられますが、“誰彼ともなく農地を渡していたら地域のバランスは崩れてしまう”というのも一つだと思います。

**そこでキーワードになるのが「担い手」です。**

那珂市に来てから、就農型の協力隊の名目として「担い手確保」、「担い手不足解消」という言葉を何度も耳にしましたが、想像していたよりも農家さんにはそれぞれ後継者がいる方が多い印象です。ではなぜ、それでも担い手を確保しないといけないのか? 「こんなに担い手はいるのに、自分はなぜ呼ばれたのだろう…」そう思った時期もありました。悩んだ末に辿り着いたのは、「仮に自分一人が新規で就農し、ある程度稼げるようになって、地域全体で考えた場合それは微々たるもので、地域の底上げにはならない。」ということでした。

那珂市にとって農業は重要な産業です。もし仮に那珂市の課題として、1000万円プレイヤーと呼ばれるような農家が今よりもっと必要で、それに向けた担い手確保だとすれば、先程の農地の話も含め、確保した新たな担い手にはそれを実現するに足るフィールドを与える必要は出てくると思います。そこで初めて、担い手になると強く思っている方達に本来難関な問題である栽培技術の習得に専念できる環境を与えられるのではないかと思います。

タイトルにもある“地域おこし協力隊の活動を通してみてきたこと”。それは地域の課題です。「新たな担い手」という人材をどう取り扱い、どんなゴールに導くのか。そのミッションを成功させる為には、農家さんの思惑と行政の思惑にはズレがないことは不可欠です。そのズレを少しでも減らす橋渡しの存在になることが地域への貢献になると信じて、これからも活動を続けていきたいと思っています。



# 旅を詠む (七)

歌詠み人

たたらだに  
 鈔谷君子の旅紀行



## 『京都美山路の旅』

昨年秋、和服を愛する人たちのグループと共に、京都南丹市美山町を訪れた。「美しい山」という地名にいくらか魅せられてのことでもあるが、そこは古くからの帯の産地として知られているところで、織られていく帯の様子も見たかったし、もう一つには短歌の歌材が得られるのではないかという思いもあってこの旅に参加した。

京都駅まで出迎えてくれたマイクロバスで美山町に向かったが、京都の市街を抜けて車窓に映る景色が次第に田舎の風景に変わっていくのが楽しかった。

美山町は由良川の源流の里とか。そこへ着くまでは、昼なお暗いような道を曲がって走った。やがて由良川に沿う民家が一軒また一軒と見えてきた。どのあたりが分水嶺かわからないが、日本海へ注ぐという水は澄んで川底の小さい石もはっきり見えてきれいだったし、何よりも北山杉の山の美しさには感動した。美山は標高が高いのか、山の高さは感じない。一直線に植えられた杉は枝打ちされていて山頂まで見透かされ、律義というか凜として清々しい光景だった。

やがて美山町の中心の町へ着いた。この地区は国の「重要伝統的建造物群保存地区」に指定され、美し

い日本の原風景を今に残す「美山かやぶきの里」として多くの観光客に人気の高いところらしい。

私の古里の村も茅葺きであった。茅葺きといっても茅の生える河原も少なく、麦藁で葺いていた。そんな子どもの頃の記憶もあってその風景が一層郷愁を誘った。そして子どもの頃の思い出もよみがえってきた。

夏の夜は蚊帳を吊っていたし、蚊帳の中へ蛍を放って遊んだこともなつかしい。庭先に縁台を出して団扇で蚊を払いながら、祖父は昔話をよく聞かせてくれたものだ。今は街に住んでいるので梟の鳴く声など聞くこともないが、田舎の日暮れの梟の物悲しい鳴き声は子どもの頃はとても寂しくて嫌いであった。

梟の鳴きしずむ夜亡き祖父の  
 お伽噺を闇に聞きたり

梟のぼろきてほうこうと鳴く夜を  
 老いの野良着に月明りする

ぼろきてほうこうとは、襤褸を着て他家へ出て奉公するという悲しい時代のあったことを祖父は話したかったのである。

## 三名(迷)所探し その2

日本三景、三古湯、三名爆、三大夜景、三大がっかり……

世に三名所は数多くありますが、新たな視点から新しい三名(迷)所を探してみようという企画です。



### ▶▶▶ ご当地焼き鳥三珍

焼き鳥と言えば、読んで字のごとく鶏肉を串にさして備長炭などの炭火でじっくりと焼いたものというのが通り相場ですが、「ところ変われば品代わる」で、少し変わった焼き鳥もあります。



#### 1 室蘭やきとり



製鉄の街、室蘭で焼き鳥と言えば、豚のロース肉と玉ねぎを交互に串に刺してタレにつけて焼き上げたものを指します。

昔、北洋銀行の室蘭支店にいた友人を訪ねた際に、「室蘭に来た以上は、室蘭名物の『焼き鳥』を是非食べてもらいたい。」と連れていかれた地元の有名店で初めて食



べてびっくりした覚えがあります。

というのも、暖簾にもメニューにも焼き鳥と書いてあるのに鶏ではなく豚ロース肉だったからで、私の不得要領な顔を眺めながら、「室蘭は鉄の街で、鉄工所で汗水たらして働いた男たちが手っ取り早く栄養補給するには、豚肉の方が適していたからで、また、塩分補給のために味付けも濃い目になっている。」と言った友人の言葉が耳に残っています。

その後、工場群の夜景、白鳥大橋などを案内してもらい、「鉄の街、室蘭」を満喫しました。

もっとも、鉄の街の焼き鳥がすべて豚肉というわけではなく、釜石市、八幡(北九州市)の焼き鳥は、文字通り鶏です。

室蘭の場合は、北海道の大地で育った豚が美味しかったという事情も加わったためと思っています。

## 2 東松山やきとり



面白いことに、美味しいブランド地鶏は海がある県産が多い。

比内地鶏(秋田県)、名古屋コーチン(愛知県)、伊勢どり(三重県)、近江地鶏(滋賀県)、阿波尾鶏(徳島県)、土佐ジロー(高知県)、骨太有明鶏(佐賀県)、天草大王(熊本県)、宮崎地頭鶏、妻地鶏(宮崎県)、さつま地鶏(鹿児島県)…などで、九州、四国に多いのも特徴的です。

海風と貝殻のカルシウムが美味しい鶏肉を育てるのでしょうか。

この伝でいえば、海なし県埼玉のさらに陸の中央に位置する東松山市はうまい地鶏の生育条件に欠けるという事になり、代わりに、秩父辺りから美味しい豚肉を持ってきて活用するという事になります。

そこで、じっくり焼いた豚肉に薬味の利いた『味噌だれ』をつけたものが東松山やきとりの定番となります。味噌だれは、各店秘伝のものなので、各店食べ比べも一興です。

特に、かしら肉は濃い味わいで、菌ごたえも良くお勧めの一品です。

東松山市内の埼玉県こども動物自然公園を歩き回り、汗をかいた後で、ビールとともに味噌の利いた豚肉の焼き鳥に舌鼓を打ち、翌日は飯能の竹寺でさっぱりとした精進料理で心身を清めるというのも乙なコースと思われまます。

もっとも、現在、埼玉では「彩の国地鶏タマシャモ」という大和シャモ、ニューハンプシャー種、大シャモ、ロードアイランドレッド種を掛け合わせたブランド鶏が作られており、なかなか味の評判も良いようです。

## 3 今治やきとり



今治タオルで有名な今治にも、ユニークなご当地焼き

鳥があります。

小ぶりに切った鶏肉を大きな鉄板で炒めるもので、手早く大量にできるところに良さがあります。

また、この製造工程からも分かるように、焼き鳥を焼き鳥たらしめる必須アイテムの串も使用していません。

もともと串は炭火の上で鶏肉をクルクル回しながら、均一に火を通すのに必要で、さらに肉とねぎ、肉と玉ねぎなど異なる食材をまとめ上げるのに必要でしたが、今治のやり方では、このような必要がないからです。

では、今治方式がどうして生まれたかと言えば、今治は造船所でも有名な造船の街でもありました。造船大国日本と呼ばれ、海外からの船舶受注も多かった高度経済成長期には、猫の手も借りたいくらいの忙しきで、造船所で働く工員たちは、寸暇も惜しんで働いたと言われていました。

そんなときには、手っ取り早くタンパク質などの栄養を取ることができる食事が必要で、その需要に合わせて生み出された焼き鳥なのです。

今治は、タオル、造船の他、今治城でも有名です。

今治城は、海を防衛のための堀として、さらには、出撃のための海の航路として活用した海城として有名で、築城の名手藤堂高虎の手になるものです。

現在からみても、なかなかの土木技術で、柔らかい海の砂の上に堅牢な城郭を築くために様々な工夫が凝らされています。

藤堂高虎は、同じ愛媛県内の宇和島城の築城にも着手(完成は、後に城主となった伊達宗利)しています。

このほか、愛媛県には肱川を堀として活用した川面に立つ大洲城、賤ヶ岳の七本槍の一人 加藤嘉明が心血を注いで築城した松山城などの名城がありますので、今治城—松山城(全国12名城)—大洲城—宇和島城(全国12名城)と城巡りをするのも、歴史好きにはたまらない旅の醍醐味と思われまます。

ちなみに、広辞苑によれば やきとり(焼鳥)とは「鳥肉に、たれ・塩などをつけてあぶり焼いたもの。牛・豚などの臓物などを串焼にしたものにもいう。」とされていますので、豚肉を使った室蘭や東松山の料理をやきとり(焼鳥)と称しても、「看板に偽りあり」、「羊頭狗肉」とは言えないようです。

また、『日本七大やきとりの町』と呼ばれる町があり、次の7か所ですが、上掲の室蘭、東松山、今治が含まれていることは言うまでもありません。

### 日本七大焼き鳥の町

美唄やきとり(北海道)、室蘭やきとり(北海道)、福島やきとり(福島県)、東松山やきとり(埼玉県)、今治やきとり(愛媛県)、長門やきとり(山口県)、久留米やきとり(福岡県)

# 「亀島川みずべまつり」 盛大に開催

全国ふるさと大使連絡会議 副代表/水都・東京未来会議 役員 本多 忠夫

全国ふるさと大使連絡会議も後援団体として名を連ねた「亀島川みずべまつり」がさる7月の9日(土)と10日(日)の両日、東京都心にある亀島川(運河)で、開催された。この催しは、水都・東京未来会議が主催したもので、私もその委員の一人である。

この亀島川によって囲まれた地区は、現在、東京都中央区の東端、新川1、2丁目にあたる地区で、昔は靈岩島と言われた。靈巖島とも書く。

江戸時代初期には大川(隅田川)の中州(川中島)で、江戸中島とよばれていた。亀島川はその中島の西側部分で陸地部との間の隅田川の一部を護岸で整備して運河としたものと言えよう。のち、日本橋川を延長して中島は二分された。北側は箱崎地区そして南側は靈岩島と呼ばれた。靈巖雄誉が靈巖寺を建立したところから名がついたといわれている。その後この地区には運河・新川が掘削され、越前福井の松平忠昌の濱屋敷が作られた。周囲を堀で囲み、それを越前堀と呼ばれていた時代を経て、明治時代には、新川も越前堀も埋め立てられ越前堀に囲まれた地区には御船手組屋敷、南端には船見番所が置かれ、永代橋まで畿内からの廻船が入りこむため江戸の港として栄えたという。下り物の問屋として、靈岩島町には瀬戸物問屋が多く、また、船大工も多く居住していた。旧新川町の河岸には酒問屋が集中し繁栄した地域である。細かく見ると非常に興味深い靈岩島であるが紙面の関係上省かせていただく。

現在、この地区一帯はビルが林立し事務所街となっている。川辺にはマンション等が建てられており、ビルの中には昔を偲ぶ酒屋問屋が今も営まれている。

亀島川には二つの水門があり隅田川からの逆流や東京湾からの高潮を防いでおり穏やかな川となっている。護岸がまだ完全に整備されておらず、普段はその河川敷に降りて直接川と接することが出来ない。私達は、数少なくなったこうした運河や河川とより近づき、水と親しむことによって潤いを得る喜びを復活したいとの思いで、「亀島川みずべまつり」の企画を思いついた。そこで中央区役所の応援を得て、両日特別に護岸に降りることを許可された。

両日とも真夏日で暑い盛りであったが、天候には恵まれ、大盛況内に終えることが出来た。会場となった亀島川沿岸には遠路はるばる尋ねてきた家族連れや地元の町内会の皆さん、小学校の子供達が続々と集まり、多くの学生さんが応援に駆け付け、寂しい土・日の都心をにぎわいのある町として笑い声が絶えなかった。

当日の催しは、手漕ぎボート乗船体験、電動ボート水上散策、親子でカヤック体験、SUP体験教室、親子では釣体験教室やこの靈岩島を中心とした散策、町歩き、(日本橋ドキドキツアー、新川酒屋めぐりヘロヘロツアー等)、それに亀島川の護岸の清掃・クリーンアップ散策、地元企業の内田洋行の社会科見学ツアー、サロンでの河川に関する展示や飲み物の提供等が行われる等多彩な催しが行われた。参加者はそれぞれ思い思いの催しに参加し、日の暮れるのを忘れて、一時を思う存分楽しむことができた。

昔から水辺は心を癒やしてくれるとよく言われてきた。それは人類共通の心境で、本能的に安らぎと潤いをもたらすのだ。誰でもが等しく母親の羊水の中で生命を育み、一定の生命力が得られたとき、この世の人となって生まれてくる。母親の温もりのその奥に、水辺での一時こそ、真に人は安らぎを感じられる。人々はそうした心境になる心を生まれながらにして、そなわっていることによるものであろう。ふるさとを思う心と似ている。生まれ育った所を都会であろうが地方であろうがその場所をふるさとと感じている人々にとって、ふるさとは心の支えであり癒やしの原点であろう。私達東京人にとっては、「水辺祭・みずべまつり」はふるさと祭の復活と同様である。江戸時代に栄えた町を探索したり、川辺で遊ぶことはふるさと帰りと同じである。

ふるさと大使の皆さんもこうした都会での催しに積極的に参加して、心を和やかにして、ふるさとを思い出しながら、意義深い一日を過ごしては如何であろうか。来年も今回の催しを元に、もっと充実した大会にしたいと一同張り切っている。是非、来年には多くのふるさとを愛する皆さんの参加を期待している。



### ◆新会員のひと言◆

Jネットふるさと越後大使 **小林 豊樹**

この度、全国ふるさと大使連絡会議の会員とさせていただきます小林豊樹と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

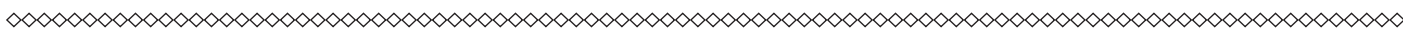


10年余り前、70を迎えたころから、DNAと言うんでしょうか、ふるさとが気になりだしまして、ふるさと上越ネットワーク(新潟県上越市出身者中心の任意団体:通称Jネット)に入会いたしました。広告戦略やブランディングに携わって参りましたので、ふるさと活性化に少しでもお役に立てればと思ったからです。Jネット会員は600余名、年9回の「たより」の発行とホームページ「ふるさと上越ネットワーク」の発信・管理を行っており、会長を中心に20余名の執行部で難かしい運営を熟しています。

Jネットの課題を、私なりに整理しますと①Jネット会員・新規会員の減少と高齢化。近年若い会員の入会が少なく、何かいい手はないか。②「ふるさと」の活性化にもっと協力出来ないか。ふるさと側の盛り上がり欠かせないのだが…他のふるさと会の情報を知りたい。③「ふるさと」魂は希薄化していないか。合併で大きくなった上越市だが、市・町・村・集落ごとの生産・生活・文化の伝承が、萎んではいないか。

地方の時代と言われた頃の熱気は感じられず、(事態はますます深刻に推移しているにもかかわらず)一地方都市の問題ではないなと感じておりました。そんな折、代表の平谷さまとご縁をいただき、入会させていただくことになった次第です。皆さまと情報を共有することでWIN・WINの関係に向けた前進に期待しております。

どうぞよろしくお願いいたします。



新潟県長岡市「越後ふるさと応援団」団長 **大場 いぶき**

新潟県長岡市「越後ふるさと応援団」の団長 大場いぶきと申します。



中央が筆者

私は祖母が戦後に立ち上げ、今年で創立77年を迎える「石井綾子バレエスタジオ」を運営しています。20歳から講師として未就学児から60代の幅広い方々にバレエやモダンダンスを教えました。

新型コロナウイルス感染症の流行で、イベントや発表会が激減し、一生懸命、練習を重ねてきた方々の発表の場が減ってしまったことで、「このままでは人が輝く場がなくなってしまう」と危機感を抱きました。

そこで、2019年11月に立ち上げたのがNDSP (Nagaoka Dance Song Promotion) です。新潟市や長岡市でダンスイベントを実施、児童養護施設でクリスマスイベントを企画するなど、様々な方が輝ける場を作ってきました。

今年10月に行われます「第26回ふるさと大使全国大会」では、日本三大花火の一つに数えられる長岡大花火大会の見どころの一つ「復興と感謝のシンボル 復興祈願花火フェニックス」の映像に合わせて子どもたちがダンスする様子をご披露致します。

「復興祈願花火フェニックス」は、2004年10月に起こった新潟県中越地震からの一日も早い復興を祈願して、世界に誇れるような壮大な花火を打ち上げたいという想いでスタートした花火です。大変感動するので、ぜひいつか8月2日、3日当日に現地でご覧ください。

新潟県は、東京から上越新幹線で1時間半。長岡大花火大会のほかにも、世界遺産を目指している佐渡市の金山、酒蔵も多くあり、全国屈指の米どころでもあります。多くの魅力がある新潟県にぜひ足を運んでいただきたいと考えています。

今後は「越後ふるさと応援団」として、新潟で活躍しているシンガーソングライターやインスタグラマー、美容部員など約10名でアイデアを出し合い、新潟の魅力を発信していきます。

全国の大使の方々の良いアイデアを勉強させていただき、新潟の皆さまの「かがやく場」を作り、新潟の活性化につなげていきたいです。

### 会員の提言

## 「竹の文化を守り育てよう」

竹や笹(以下竹と称す)は縄文時代から日本に自生していたと考えられる。平安時代には古今和歌集や「竹取物語」にも登場し、ことわざや漢字の部首にも多く使われるなど日本人に馴染みとなっている。鎌倉時代には弓矢などの武器のほか茶道や華道にも多用され、すくすくと直ぐ伸びる生命力の強い生態は日本人の感性に合うものとして愛着をもたれた。曲げやすく折れにくく、加工しやすいことから、建材や日用品にも広く用いられ、タケノコは季節の食材としても好まれてきた。

ところが、最近では建材や日用品はプラスチックにとってかわり、タケノコは輸入品に押されて、国内の需給アンバランスが生じている。竹は伐採するのに手間がかかるし、既存の森林の生育にもマイナスになるので厄介者だという風潮もある。

しかし、竹は日本人が古くから慣れ親しんできた日本文化の原点ともいえる植物なので、そう軽々しく扱っていいものだろうか。

改めて、竹の魅力を再発見し、竹資源の有効活用について考えたい。その際、竹を愛する市民と竹を守る生産者や専門家、行政担当者育成者の協働が必要なことを訴えたい。また、最近急速に進む竹の粉碎・セルロース化技術にも注目していきたい。

(函館観光大使 鈴木 克也)

## 新年会員交流会の御案内

恒例の新年会員交流会の開催を令和5年(2023年)1月下旬に予定しています。

新春を寿ぐのに相応しいHappy Island喜界島について、『サンゴ礁が創り出した 奇跡の島 喜界島』と題して、喜界島大使館館長の友岡照美様からお話をお伺いし、その後、ふるさとの歌などの芸能を交えながら、ふるさと大使をはじめ地域おこしに熱い思いを有する仲間たちと懇親交流を行う楽しく有意義な会にしたいとプランを練っています。

詳細が固まり次第、別途連絡しますので、奮ってのご参加をお待ちしています。

### 事務局より

私が全国ふるさと大使連絡会議に入会したのは、2015年になります。官主催の勉強会の席で浅田前代表から、こういう会があって、全国大会があるから参加しないか?のお誘いを受けて、参加させて頂き、会のものすごいパワーを見せられ、すぐに入会の申し込みをさせて頂きました。

その時の全国大会は確か300名以上が参加されていたかと思ひ出します。自身の仕事の都合でしばらくのブランクがありましたが、一昨年より2度目の事務局長を拝命して、さて、私は、事務局長として何をすれば往年の勢いを取り戻せるだろうかと、模索を繰り返しています。現在の私は、経営コンサルタントを業としながら、地方を元気にする事業に取り組んでいますが、その合間を縫って事務局の作業をして

います。

時間のやりくりにも苦労する事もあります。

そんな時に限って、一部の方から「ごくろうさま」や「ありがとう」のメールをいただきます。本当に事務局をやらしていただけてよかったですと感じさせてもらえます。

経営コンサルタントとしての私は「人を喜ばす事」を基本理念にしています。企業経営は人が財産だからです。

全国ふるさと大使連絡会議も人の集まりです。「人を喜ばす事」で多くの「ありがとう」が飛び交えば、人は集まってくると考えています。事務局長としてこの心構えで、全国ふるさと大使連絡会議にたくさんの方に関わっていただけるよう「顔晴り」ます。

事務局長 甲斐功一

### 全国ふるさと大使連絡会議の概要

- 設立年月 1996年8月8日
- 目的 各地において制度化され、委嘱されている「ふるさと大使」および「委嘱者」相互の情報交換・交流・連携を図り、全国のふるさと・地域の活性化に貢献することを目的とし、その達成のために各種の事業を行うものとする
- 会員の資格
  - ①ふるさと大使
  - ②ふるさと大使委嘱団体関係者
  - ③ふるさとを愛する人々等
- 会費 所定の会費(3,000円以上、団体会員は10,000円)もしくは相応の貢献寄与をしなければならない

2021年3月末現在の会員構成

大使会員	113名
団体会員	11団体
一般会員	155名
合計	279名

### 確認された大使制度

(2019年10月現在)

県知事が委嘱	44団体	90制度
市長村長が委嘱	630団体	731制度
諸団体等の長が委嘱	147団体	150制度
合計	821団体	971制度

### 年会費納入のお願い

個人会員—3,000円 特別会員—5,000円 団体会員—10,000円

以下の方法でご送金賜りますようお願い申し上げます。

\*郵便振込み 店名 038 普通 7211051 口座名 全国ふるさと大使連絡会議

\*銀行振込み 三菱UFJ銀行 亀戸支店 普通 0173146

口座名 全国ふるさと大使連絡会議

\*郵便振替 口座番号 00190-7-149658 口座名 全国ふるさと大使連絡会議

(注)多くの方に郵便振替でお振込みを頂いていますが1月17日の料金改定で、現金での手続きですと振込料に110円加算されます。郵貯口座での、振り込みなら加算されません。郵貯のATMから手続きできますのでご活用いただきますようお願い申し上げます。

### 編集後記

秋風とともに、アメリカンフットボールのシーズンが始まりました。

ゲームそのものの面白さに加えて、デジタルを活用した臨場感あふれる映像でゲームを楽しんでいるうちにあっという間に3時間半が経って試合終了となります。

これからはデジタルの時代とつくづく実感する昨今です。

それで、今後の地域おこしに関連するデジタル用語を分かりやすく解説してみました。

また、近年、ふるさと大使を活用したポスターで話題となった桐生市の観光交流戦略について峯岸さんから「糸へのまち」などキーワードをもとに説明いただきました。

恒例の旅紀行で、鉦谷さんから凛とした北山杉、澄んだ由良川、美山町の茅葺き屋根…幼い頃の思い出に繋がる短歌の話を、那珂市地域おこし協力隊の八子さん、支倉さん、兵藤さんから、それぞれ若々しい感性に基づく【あおぞらクローゼット】などによる静峰ふるさと公園の活性化、「簡易創業セミナー【小商い寺子屋】などによる起業のお手伝い」、「就農の新しい担い手確保とそれに足るフィールドの整備」などの活躍の様子を報告いただきました。新入会員のひと言を小林さん、大場さんからそれぞれいただきました。

さらに、本多、鈴木副代表からも亀島川みずべまつりの報告、竹の活用についての提言をいただきました。

御多忙の中ご執筆いただいたみな様に心より感謝申し上げます。

今後とも、皆様のご投稿をお待ちしています。

ふるさと大使かわら版 2022年10月16日—令和4年秋季号— (通巻104号)

◇発行：全国ふるさと大使連絡会議 (代表=平谷英明) ◇編集責任者：平谷 英明

◇事務局：〒136-0071 東京都江東区亀戸7-65-20 全国ふるさと大使連絡会議

TEL：03-3684-0488 FAX：03-3684-6800 Email：furusatotaishi@gotochi.biz

URL http://www.furusatotaishi.com

